

IV. 『源氏物語』享受の諸相

* ◇内の数字は資料番号

「源氏貝和歌」(『女庭訓御所文庫』⁴⁵)は、「源氏香文様」と巻にちなむ趣意絵を描いた貝覆(貝合様)の「源氏貝」の図を掲げ、それに即した和歌を添えたものです。

「源氏香図趣意絵」の中には、「源氏かるた総合」の図絵のような、細長い枠に描かれているもの(『春栄百人一首姫鑑』⁴⁶)もあります。

「源氏短歌」(『女要大成小倉籠』⁴⁷)は、『源氏物語』の巻名を七五調の長歌に詠み入れたものです。

「源氏目録文字鎖」は、『女用続文章目録』⁴⁸に集成されているような、一連の文章の中にさまざまな知識を盛り込んだ「続き文章」の一つで、「文字鎖」と呼ばれるのは、尻取り風の七五調の長歌の形で、『源氏物語』の巻名を詠み入れているからです。多くの資料に収められていますが、特に『御家百人一首千歳文庫』⁴⁹のものは、色刷の散らし書きになっています。ほかに、『女用文章往かひ振』⁴⁹、『桃花百人一首曲水の宴』⁵⁰、『女今川和歌録』⁵¹、『女今川姫鑑』⁵²、『紅葉百人一首姫鑑』⁵⁴などに収められています。

「源氏八景」(『百人一首玉椿』⁵⁵、『女訓玉文庫』⁵⁶、『女用文艶詞』⁵⁷、『女用文庫』⁵⁸)は、近江八景などに倣って、『源氏物語』の場面を八景に見立て、歌と絵を示したもので、「帚木夜雨」「須磨秋月」「少女初雁」「夕霧夕照」「明石晚鐘」「松風帰帆」「朝顔暮雪」「玉鬘晴嵐」となっています。

「源氏花鳥」(『錦玉百人一首宝箱』⁵⁹・⁶⁰)は、『源氏物語』に取り入れられた景物の中から、代表的な花や鳥について、相応する場面の文章や歌を記して絵を添えたもので、鶯(初音巻)、梅(梅枝巻)、桜(花宴巻)、藤(竹河巻)、夕顔(夕顔巻)、郭公(花散里巻)、朝顔(宿木巻)、水鶏(滯標巻)、雁(須磨巻)、千鳥(須磨巻)、明石巻とあるは誤りの一〇場面が、ほぼ季節の順に記されています。

「源氏四能」(『紅葉百人一首小倉錦』⁶¹)、「源氏物語琴碁書画」(『女教大全姫文庫』⁶²)は、文人の基礎教養とされた「琴碁書画」を、『源氏物語』に当てはめたもので、琴は松風巻、碁は空蟬巻、書は紅梅巻、画は総合巻が取り上げられていて、それぞれの場面の絵が描かれ、相応する本文が記されています。

(東京学芸大学名誉教授 小町谷照彦) 料から見た

源氏物語

双六・往来物を中心に